

ビオトープへの
はじめの一步はここから

ネイチャー
センター



響瀨ビオトープに生息する生きものや、当園のなりたちを、パネルなどで分かりやすく展示しています。見どころの最新情報もお知らせしていますので、まずはここで理解を深めると、より充実した見学が楽しめます。
また、自然環境の保全に取り組み市民やNPOなどの活動拠点として機能します。



内部(イメージ)

目の前に広がる
生命の循環を
感じよう



●:園路 ①:立入禁止 〓:管理道 ※園路以外は立入禁止
※トイレはネイチャーセンターにしかありませんのでご注意ください。



淡水池

よく見てみよう!

生きものの姿は見えなくても、
くらの痕跡を見つけることで、
何がいたのかを想像してみよう。



ベレット(鳥が未消化物を吐き出したもの)の中に貝がら発見。タニシを食べる水鳥がいたのかな?

白い羽毛が落ちていた。
コサギかな。



側溝に流れ込んだメダカ。数メートル先は干上がっている。雨が降らなければこのまま死んでしまうだろう。ここにもひとつの生態系。

ビオトープで見られる生きものたち



ハヤブサ(VU)



コバヤシ鳥(VU)



サンカノゴイ(EN)



カフチン(NT)



イスタキ(NT)クイコウチ



メカカ(VU) ツツイトモ(VU)



オシチ(NT)



ウツキギシ(VU)



ミツコシ(NT)



コガタ(NT)ゴウコウ(CR+EN)



ベニトビト(VU)



トノサマガエル(EN)

環境省 絶滅危惧種 カテゴリー

- 絶滅(EX) ● 野生絶滅(EW) ● 絶滅危惧I類[絶滅の危機に瀕している種] ● 絶滅危惧II類(VU)[絶滅の危険が増大している種]
- 絶滅危惧III類(EN)[IA類ほどではないが近い将来における絶滅の危険性が高い種] ● 絶滅危惧IV類(CR)[ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種]
- 準絶滅危惧(NT)[現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種]

水辺の鳥たちに
そっと近づいてみよう

湿地



観察デッキ

クロツラヘラサギ
(CR)

ヨシなどが繁茂する池には時折、水鳥が現れます。ここには鳥が運んできたメダカも生息しています。



野鳥観察施設



見晴らし台から
ビオトープ全体を見渡そう



砂礫地

コアジサシの繁殖を目指し、約1haに砂の上に貝殻をまいて営巣地を作りました。

コアジサシ
(VU)

草原

ミサゴの営巣地としてポールの上に巣を設営しています。



ミサゴ
(NT)

カヤネズミ
巢 (VU)



鳥が落としたフンに残った種からこんな木が生長しました。



ベッコウトンボ
絶滅危惧I類

動植物写真提供: 岩本光徳氏

日本最大級のビオトープ

時といのちが創った

響灘ビオトープは長い年月をかけて廃棄物処分場にできた日本最大級のビオトープです。

何もなかった埋立地に植物が生え、そこに昆虫が育ちました。さらにはそれを捕食する生き物が集まりました。デコボコの地形には雨水がたまって湿地や池となり、水鳥に卵が付いてきたのか、いつしかメダカも泳ぐようになりました。

その間、およそ30年。歳月と生命の営みが、この生態系を作り出しました。

季節ごとの自然の気配を感じてください。

〈あゆみ〉

昭和55年	埋立開始
昭和61年	埋立完了
昭和62年~	現状保全
平成16年~21年度	基盤整備(覆土)

昭和62年当時の状況



平成24年最新状況



して
の危
変化